

**【施策評価調査】**

施策名	2-2-5	認知症高齢者対策の推進		87	高齢者が明るく安心して生き生きとした老後を暮らすことができるようにするために 1. 子どもから高齢者、障害者も利用できる複合的な多目的施設の整備 2. 要支援要介護にならない予防策 3. 地域包括支援センターの有効活用 4. 高齢者の社会参加と学習機会の提供 5. 安定した生活支援 6. 地域協力の体制づくりを構築する
	担当部課	住民生活部 健康福祉課	担当 リーダー		
環境変化	高齢化の進展とともに認知症高齢者も増加にあります。それに伴い、徘徊高齢者の家族の負担が重くなってきています。			施策内容	認知症高齢者とその家族に対する支援の充実に努めます。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

**■指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:徘徊高齢者探索端末購入補助申請者数(単位:人)	平成16年	計画	10人	15人	20人	25人	30人
	0人	実績	↓ 0人	↓ 0人	↓ 0人	↓ 0人	
指標②:介護者のつらい開催回数(単位:回)	平成18年	計画			3回	4回	5回
	1回	実績			↓ 1回	↓ 0	
◆◆ 指標に関する特記事項 ◆◆	認知症サポーター講座を開催し、高齢者の認知症に理解されるよう説明した。						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	100,000	100,000	100,000	100,000	
	決算	0	0	0	0	

**■事務事業事後評価 21年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)
①徘徊高齢者探索端末購入補助	当初 100,000	申請者数	B	探索機器導入のニーズが無いことから、事業を廃止する。しかしながら、認知症の高齢者は着実に増加していることから、自宅で過ごす方への徘徊探索機器の導入方法の研究が必要であるとともに、地域での見守りや支援体制の整備を検討していく。
	決算 0	0人 / 10人		
②認知症対策推進事業	当初 0		A	認知症高齢者の増加とともに、認知症サポーターの育成・確保は重要である。自宅で過ごす認知症高齢者には、徘徊機器の設置のみとせず地域の見守りが重要であることから、認知症を知るためのサポーター講座開設は有効な事業である。
	決算 0	381人 / 500人		
③	当初			
	決算	/		
④	当初			
	決算	/		
⑤	当初			
	決算	/		

**■施策事後評価 21年度の検証**

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	居宅で過ごす認知症高齢者には、徘徊端末機等の有効な導入方法を検討していく。機器の導入とあわせ、地域の見守りを行うなど総合的に研究していく。認知症サポーター講座の開催は、認知症を身近に理解できるものであることから、いろいろな会議の場所で今後とも開催していく。	認知症高齢者対策の推進は平成22年度から「地域包括支援センターの創設」施策中の包括的支援事業に統合する。認知症高齢者は増加していることから、徘徊する方への居場所確認のための徘徊探索機器の導入方法を研究する必要がある。
総合評価	後期計画に向けて、地域や他機関と役割分担し、認知症への理解や家族への支援など町がすべきことと整理し、他の施策と統合することで、成果が得られると判断し、施策の舵切りを検討したことを評価する。また、現実的に徘徊高齢者がいることを受けて、次の手立てを研究するとともに、新たな制度や周知方法も検討すること。	